

令和6年4月 市長定例記者会見

令和6年4月1日(月)

午後1時30分 開始

【広報広聴課主幹】 では、ただいまから定例記者会見を開始させていただきます。

初めに、市長よりご挨拶申し上げます。

【市長】 皆さん、こんにちは。新年度もよろしくお願いいたします。

最初、冒頭ですけれども、先月の3月16日に、すばらしい、本当にいい天気、晴天の中で北陸新幹線開業を迎えることができました。3月16日と17日は、開業イベント、つるが街波祭が開催されまして、大変多くの観光客、そして市民の皆様にも新幹線開業を盛り上げて、お祝いをしていただきました。開業にご尽力いただきました方々、それからイベントに携わっていただいた方々、ご来場いただいた方々、全ての皆様に心から感謝を申し上げます。

今後は、開業のまちづくりという段階にフェーズが変わっていくと思っています。敦賀市が大きく飛躍する新しい時代をつくっていくということをしっかりとやっていきたいと思っていますので、引き続きご支援とご協力をお願いいたします。

それから、今日、4月1日から新年度がスタートするということで、ご承知のように組織改正を行いました。その中で、まちづくり観光部をはじめ、様々な部署を整備しました。部もつくりましたし、課も異動がありました。

新幹線開業後の持続的なにぎわいを目指すためのまちづくりということで、施策の着実な推進、それから各行政課題の解決に当たって、今どういう組織だったらそういうことがやりやすくなるのかということ、効率的、効果的な執行体制が何なのかということを考えながら整備を行ったつもりです。新たな体制の中で、しっかりと市政を進めていきたいと思っています。

それから、これもご紹介させていただいていますけれども、令和6年度から、まちづくりの指針となる新しい総合計画、第8次敦賀市総合計画が動き出します。計画全体のベースになっている、底流に流れている政策課題が人口減少の問題です。子育て・教育、定住・移住、地域経済を活性化する、そして安心と暮らしやすさの各政策分野を連携させて、人口減少対策を推進していきたいと考えています。

この総合計画の中では、敦賀市をどのように魅力あるまちづくりをしていくのかということで、好循環が継続する、発展し続ける地域の実現を目指しているんですけども、そ

れに全力で取り組んでいきたいと思っています。

冒頭の挨拶は以上です。

【広報広聴課主幹】 それでは、本日、市長からの事業発表はございませんので、フリーの質問対応に移りたいと思います。

初めに、幹事社の方からお願いいたします。

【記者】 今も市長のほうからご挨拶、言及いただきましたけれども、新幹線開業から2週間ぐらいで、この間、天気がぐずついていた日もありますけれども、市内の主要観光地の入り込み数とか来訪者数とか、開業以降この2週間程度の数字的な実績等、市として把握されているものがあればご紹介いただければと思います。またそれを踏まえて、終着駅効果ということをやっているとされていますけれども、スタートダッシュといえますか、その辺りについての市長の評価といえますか受け止めについて、また今後の展望についてお聞かせいただければと思います。

【市長】 まず、どれだけデータが把握できているかというところで、正直これからなんですけれども、3月16、17日のつるが街波祭ということで開催しましたが、それについては2日間で4万3,000人ご来場いただいたということです。主催者の取りまとめということになりますけれども、16日に約2万9,000人、17日に1万4,000人と聞いています。

その後というのは、これからいろいろデータの取りまとめをしていきたいと思っています。私が思っているのは、新幹線が開業前後のビフォーアフターでどのように変わっていったのかということです。これはやはり数字で持っておくことが大事だなと思っておりますので、そういうことをしっかりと調べていきたいなと思っています。

アフターのほうも何段階かあると思っています、16、17日は開業だということでいいんですけれども、それからしばらく、最初に開業して、行ってみようという時期、それから、そこからしばらくたって落ち着いた後のアフター、そのような段階があると思っています。それをデータでしっかりと追ってきたいなと思っています。

これからどうしていくのかというと、今、印象としては正直申し上げると、街波祭は、本当に天候にも恵まれて、上手くいったなと思っています。多くの方に喜んでいただいたし、そういう反応ももらっています。

その後のここまでということ言えば、聞いているところでは、やはりお客さんは増えているということです。宿泊、飲食、お土産について聞いています。ただ、それが先ほど

言った段階でいうとまだ初期の段階で、開業効果一番のピークのところが出ているような状況だと思いますので、それはこれからしっかりと見ていかなければいけないなと思っています。

スタートダッシュとしては、本当にいいスタートダッシュを切れたという印象を持っています。

これからそれをいかに持続するかということが大事になってきますので、本当に少しでも、前年比1%、2%でも伸び続ける、それを長い期間続けるということが大事だと思っていますので、開業したからそれでまちづくりは終わりということではなくて、これからいろんな施策をデータを見ながら打っていくということが大事ななと思っています。

【広報広聴課主幹】 では、幹事社の方、お願いします。

【記者】 市長が就任されてちょうど今月で1年ということで、この1年の振り返り、受け止め等を伺えたらと思います。

【市長】 3月の記者会見でも申し上げたかもしれないんですけども、ほとんど振り返っていません。

ただ、ずっと一生懸命やってきて、いろんなことが分かってきたというのも思っていますし、それをこれからずっとやっていくことに反映させていきたいと思っています。走りながら考えるような感覚があって、何か計画をすっぱり立てて、それで、さあ終わってから実行という形ではなくて、走りながらどんどん計画も立てるし実行もしていく。それでフィードバックがあったら、それに基づいて計画もどんどん変更していくという形で回していっていると思っていますし、これからもそれを続けていきたいと思っています。

【記者】 ありがとうございます。あと、先ほどの今後の開業効果の分析というところにも、今後多くの人に来てもらう、あとはリピーターの獲得とかも観光客の方で、結構これも大切ななと思うんですけども、何回も敦賀に来てもらうために、今のところこういった取組ができたらいいなというものがあれば、お願いします。

【市長】 リピーター、確かに新幹線が来た当初は一番最初に初見というか、敦賀開業だということで敦賀のことを知ってもらって、それで一回行ってみようかという形で来られる方は多いと思うんですね。そこから少しでも、もう一回来ようと思ってもらえるということが大事だと思うんですけども、それにはやはり、敦賀のいいところ。それは景色であったり、あと何といても食が敦賀のすごく売りになっているところだと思いますので、そういうところの宣伝を上手くやっていきたいなと思っています。そして、周りとの連携

です。敦賀だけでそれができるのかというと、そうではなくて、行きたい場所というのは敦賀以外にも設定はできると思いますので、嶺南だったりとか、あるいは琵琶湖、滋賀県の湖北のほうだったり、そういうところも含めて行きたい場所をちゃんと宣伝して、それで敦賀まで来ていただいて、敦賀で宿泊をして、あちこち回っていただいて、食事は敦賀でしていただけたらな、お土産は敦賀で買ってもらえたらなというのを思いながら、いろんな地域と連携しながらやっていきたいと思っています。

各地域も、自分のところで御飯食べてほしい、自分のところでお土産を買ってほしいとは思っていると思うんですが、取りあえず敦賀に来ていただく。そのために周りとの連携していただくということをやっていききたいなと思っています。

【広報広聴課主幹】 では次に、各社の方からお願いいたします。

【記者】 新幹線のところにもつながっていくことかなと思うんですけども、金ヶ崎エリアの再開発が去年の11月に計画が、デザインの案が発表されて、そこから結構議論も盛り上がっているのかなというところなんですけれども、新年度ということで、まだ具体的な事業の規模だったり額だったり、見えてないところも結構あると思うんですけども、本年度、この金ヶ崎をどのように進めていきたいかというところで、こういうことをやっていきたいという意気込みを聞かせていただければと思います。

【市長】 これも従来申し上げているとおりなんですけれども、昨年度、デザイン案が出ました。あれを参考にするとかベースにして、いろいろ考えていくわけなんですけれども、あそこのエリアというのは大きく二つに分けてあって、一つが公共で整備をしていく部分。例えばJR貨物の跡地については、購入を前提として昨年度もいろんな調査をしておりますし、今年度も予算をつけているということ。それは公園整備について、どう市民に親しんでもらえるのか、そういう公園にするのか、あるいは観光客にも来ていただけるような公園にするというようなことを考えながら整備をしていくのだと思っています。

それとは別に、今のデザイン案の中で見ると、緑地の部分。これは民間主体でやっていただくという計画で、民間のいろんな経営判断ということも入ってくるので、その民間とのコミュニケーション。当然我々も周辺の整備をしていくに当たって、民間の計画がどう進んでいくのか、どういう内容になっていくのかというのはしっかりと見ながら、あるいはこちらの意見も伝えながら進めていかなければいけません。民間部分についてはそういうコミュニケーションを取りながら、全体としてまとまりのあるエリアにしていきたいと思っています。

ということで、要約的に言うと、公共でやる部分については、我々は計画どおり進めていく予定です。民間については、しっかりとコミュニケーションを取りながら、全体として調和の取れた計画にしていくということで今年度も進めていきます。

【記者】 先ほど市長の言及にもありましたけれども、新幹線のデータはこれからだということでお話がありましたけれども、印象の範囲で、意外とこんな傾向があるぞというのが見えたところで、来てみて分かったような印象とかがあれば教えてください。またこの点に関して、私、取材していても、出張で金沢に行く機会があったのですが、敦賀に来てはみたものの、泊まるのは金沢というお客さんが物すごく多くいらっしゃいました。先ほどのエリア間の引っ張り合いというところでもこういったところ、しかもこれから地震からの復興となってくると、やはりチャリティーで加賀温泉だとか和倉温泉に泊まろうというお客さんが絶対増えてくると思うので、その点はどのように対策をしていくように考えていらっしゃるのかをお聞かせください。

【市長】 印象ということで言うと、正直、私も先週末コンコースに入って人の動向を見ていたんですよね。かなりのパーセンテージ、乗換えですよ。乗換えで行くんですけれども、そこから何%かは西口のほうに降りていったりするんです。

それを見ていると、やはり新幹線の輸送力はすごくて、そこから何%かだけでも西側に降りて商店街のほうに流れていくだけで、商店街の人とかとお話しすると、かなりお客さんが来ているということと言われるんです。正直、私どれだけ行くのかなと思っていたんですけども、印象で言えば、割とたくさん西口のほうに流れていっているなと思います。

それがコンコースにいますと、これだけしか西口に行っていないよねというレベルでも、西口でお客さんを待っている人にとってみると、たくさん来てくれているということで、新幹線の輸送力にまず驚いている感じですね。

その次に、今、私、宿泊して回ってほしいという話をしたんですが、金沢のほうに泊まるということを裏返して一つ言うと、敦賀の泊まる場所のキャパの問題もあると思うんです。というのが、ホテルの稼働率、結構敦賀はいいんですよ。これが敦賀のホテルがすかさず泊まってもらえなくて、それで金沢へみんな行っていますよと言うと、それはすごく心配するんですけれども、宿泊は結構稼働率がよくて、周りの飲食も、なかなか予約が取れなくなっているとか、ぱっと入ったら席が埋まっていて入れなかったとかいうようなことを聞いているような状況です。むしろ問題は、敦賀に来たいと思っている人たちが

しっかりと敦賀に泊ってもらえるだけのキャパを敦賀が持つことだと思ったりもします。

ただ、今は先ほど言いましたようにビフォーアフターでいうとアフターでもすごく初期段階ですので、ピーク立っているということは絶対あると思うんですよね。そこら辺は今度、本町通りのほうにも199室の宿泊施設ができることになっていますから、そういうところの動向も見極めて、その稼働率なども見極めて、もっと宿泊施設が要るのかなと思います。

ただ、そうなってくると民間のほうも動いてくれると思うので、またいずれ、ホテルは公共が建てるわけではないから、いずれ民間のほうでという話になってくるかもしれないかもしれませんが、本当にお客さんが来てくれたら、今は金沢に行っているかもしれないけれども、それは一つ言うと、敦賀のキャパ不足というのものもあるのかもしれないと思っています。

【記者】 ありがとうございます。それから、全く話は変わるんですけども、先日、乾式貯蔵に関して、計画が県も了承ということで、立地自治体も全て了承とすることで進んでいくわけですけども、その中で一つ長期化に関しては、私、取材している限りでは、私の印象ですけども、嶺南地域の住民の方々がそこをあまり心配しているようには私、正直感じてなくて、県議会の議論と若干温度差というのを私、住民の感覚に感じているところがあります。プラスアルファで、どちらかという量を増やさないという約束、これが守られるかどうかということに関しては、なし崩しになっていくと結構大きな問題になってくるのかなと思っているんですが、一方で、一部の首長さんだとか知事からは、状況によってはそれも仕方がないと取れるような発言もあるので、これもどうなっていくのかなと懸念しているところなんです。この辺、市長の立地自治体の一つの長としての見解をお聞かせください。

【市長】 乾式貯蔵の話、もちろんあるんですが、私、この話の本質的な部分は、プールであろうが乾式であろうが約束を守っていただいて県外搬出をするということがこの話の本質的な部分だと思っています。例えば乾式貯蔵がなくてもずっとプールに置いていいのかというと、そうではないと思うんですね。

約束という、今度は県と関電さんの約束とになるので、これは、どういうことをもって約束を守ったとするのかというのは県のご判断だとは思いますが、本質的にはプールであろうが乾式貯蔵であろうが約束を守って県外搬出をするということに尽きるのかなと思います。そういう意味では、ロードマップを守ってやっていくことに尽きるのかな

と思っています。

ただ、計画の中には乾式貯蔵というのが入ってきていて、それは搬出をしやすくするよということと、あと安全性の問題ということを理由にされているわけですがけれども、それについては、私は一定理解できるなと思っています。

ではそうなったときに、容量を増やすことが懸念されるということがあるんですけども、これについては、知事のほうもくぎを刺すこともあるというようなことも記者会見で言われていたと思います。しっかりとそういう形で約束を守っていただくというのが大事だと思っています。

この話、だから約束を守って搬出してもらうという本質的な部分と、容量を増やさないという2つのポイントがあると思います。県外搬出ということに関しては、先ほど申し上げたように県との約束をしっかりと守っていただく、ロードマップに従ってやっていただくということですし、その中で乾式貯蔵という一つの手段を取るのであれば、これも約束の中で容量を増やさないと言われているので、そのとおりにやっていただくということだと思っています。

嶺南地域の人があまり心配しているように見えないというのは、一つは、乾式貯蔵イコール何か安全性が下がるとかそういうことではないということ、嶺南の人は原子力が分かっている方が多い、リテラシーが高いと思いますので、そこら辺の認識があるのかなと思います。乾式をもって何か安全性が落ちるような方向ではないよということが分かっているらっしゃるというのが一つ大きいのかなと思っています。

【記者】 関連して、今の県外搬出の問題で、正直、最終処分場が決まってない段階での県外搬出というのは、あるいは置場とか迷惑物の押しつけ合いというような側面もあって、本質的な問題ではないのかなという気がしていますが、その状況で県外搬送を求め続けることが果たして妥当かどうかということに関しては、どのように思われますか。

【市長】 行き先が決まってないから、県外搬出を求めてはいけないのかというと、多分そうではなくて、今まで福井県としての言い方としては、これを国全体、国民全体で考えてほしいということを申し上げてきたと思うんですね。それは最終処分も含めてそういうことをずっと福井県としては言い続けてきたわけで、それを進めてほしいということだけだと思うんです。

私、県の立場で話すわけにいかないの、これ以上のことは言いませんけれども、最終処分場が決まっていないから、だから県外搬出を求めてはいけないということではないの

ではないかと思います。

【記者】 おっしゃることは分かるんですが、少なくともそこで増えるのが困るのであれば、原発を止めるというのが当たり前の筋の話で、それでありつつ運転は認めつつというのは、少し矛盾しているし、倫理的にあまり求めていることがどうなのかなというのは思うんですが。

【市長】 そうは言っても、原子力発電所を動かそうが動かすまいがもう既に燃料はあるわけで、これをどうするのかという問題は絶対解決しなければいけない問題なんですね。

では原子力発電所を止めたところで、この議論をしなくていいかということ、そういうわけではないので、どの道やらなければいけない議論をやるだけです。発電所を動かす動かさないというのは、他にもいろんなことを考慮しながら、今運転をするという判断をしているということです、それについては一定の理解を私はしています。

【記者】 本日から犯罪被害者の条例が施行されたかと思うんですけれども、市で条例を作られた思いをお聞きしたいのと、あと今回、敦賀と同時に鯖江だとか坂井も同時に施行されていまして、一足早く、確か越前市でもされているかと思うんですけれども、こういう動きが県内にどのように影響を与えていってほしいと思っていらっしゃるか、教えてください。

【市長】 正直申し上げて、ここ何年間かで、この条例の対象者になる方が敦賀でたくさんいたのかということ、そういうわけでは正直ないんですよ。ただ、もともと県のほうもそういう取組を、県というか全国的にと言ったらいいいんですかね、全国的に警察関係も含めてこういう取組があって、福井県のほうでも先行して条例を作ったということがあり、各基礎自治体、市町のほうでもそういう取組を促されているというのがこれまでの流れとしてありました。

敦賀市においても、先ほど言いましたように敦賀市で対象となる人がどれだけということ、正直レアなケースかもしれません。しかし起こった時のことを考えると、やはりこういう条例をしっかりと持っておいて対応できるようにしておきたいということがありましたので、このタイミングで条例を作ったということです。

作って思うのは、本当はこういうことはないほうがいいんですよ。この条例で適用されるというか対応できる人が出てこないほうがいいに決まっているし、そのような取組のほうが大事なのかもしれないけれども、いざ起こった時に、この条例で少しでも助かるというか、何か支援、サポートできるようになってもらえればと思い、今月からのスタート

ということになります。

【記者】 ありがとうございます。それで全国でも広がっているということですが、県内の基礎自治体や第2弾のグループになったかと思うんですが、今後やはり基礎自治体でももっと条例を作るところが増えていったほうがいいとお考えでいらっしゃいますでしょうか。

【市長】 そうですね。この条例の趣旨というか、この条例を作る基本的な考え方を思えば、この条例を検討するだけで、いろんなことも勉強になりましたので、この条例を持つということは、他の自治体も取り組んでいい話ではないかと思います。

【記者】 また新幹線のほうの話に戻るんですが、駐車場の話をお聞きしたいと思います。

先週末等も少し状況を見たんですが、特に西口、東口、それぞれの駐車場が満車になるような時間帯もありました。市営では白銀のほうもあつたりしますが、今後、新幹線開業で誰かがやってくるだけではなくて、市民まちなかに行くというような動きも見られるのかなと思うんですが、そういったところで満車になっていると、今後それこそリピーターでというのはなかなかつながらないのかなと思ひまして、ここの部分、お考えとして今後どうしていきたい等ありましたら教えてください。

【市長】 先ほどビフォーアフターのアフターにも段階があると申し上げたんですが、確かに今は多いし、満車になることもありがたいと思います。

少し様子は見たいと思っています。幾ら何でも16、17日、あのピークに合わせて駐車場を用意するわけにいかないんで、少し落ち着いた段階で見たいと思うということが一つと、もう一つは、基本的には、これで駐車場需要があるとなった段階では、できれば民間のほうで駐車場整備をビジネスとして考えていただけるといいのではないかと思います。

他の市や町に行って、駐車場需用があつて、それを公共がやるというところがないわけではないですけど、やはり民間でできるところはやっていますので、そのほうが経済も回りますし、いいのではないかとすることは基本的な考えとして持っています。

その上で、なかなかそうは言っても民間が来てくれないということがあれば、次の段階ぐらいで考えることかもしれないですが、今の基本的な考え方としては、需用は見極めたいです。その上で、需要が結構望めるのであれば、民間の方に考えていただきたいと思います。それを促すことは、行政としてはやっていってもいいのではないかと考えて

います。

【記者】 原子力に話が戻って恐縮なんですけれども、先月からまた敦賀2号機の審査が規制委で再開しておりますけれども、なかなか規制委のほうから、またちょっと厳しめの意見が会議で目立っているように思います。山中委員長のほうも事業者側の説明に科学的、技術的な説明とは考えにくい部分があるなどと厳しい意見が相次いでいる中で、ただ、再稼働を求めている地元の市長として、現在の議論の推移はどのように見られているか、今後の展望等を伺えたらと思います。

【市長】 私いつもこれも申し上げているのは、とにかく安全性に関してしっかりとした本質的な議論をしてほしいということを規制委員会のほうにも原電さんのほうにもお願いしたいということを常々申し上げています。今回まさに、何々に誤りがあったとかそういうことではなくて、安全性の議論をするために、いろんなリクエストが規制委員会のほうからもあり、原電さんのほうもそれに対応しようとしているということなんだと思っています。

今後、次のタイミングではこうするよ、こういう資料を出してくださいねとかいうことがもう規制委員会のほうからは出ています。

やっと安全性に関しての議論がスタートした感が、逆に私はそういうやり取りを見て思っていますので、しっかりと議論していただければいいかなと思います。

次のスケジュールとかも、ほぼほぼ、これぐらいの時期にこれぐらいのものを出してよというのが決まってというか、リクエストも出ていますので、それに対しての対応を原電のほうにもしっかりしていただきたいなと思います。

これが将来的に再稼働になるかどうかというのは、もちろん規制の判断があるわけですが、どっちにしてもしっかりとした議論をしていただくというのが私たちにとっては信頼感につながってくる。これが大事だと思っていますので、お互いにコミュニケーションをしっかり取って、本質的な議論を続けていただきたいと思っています。

【記者】 先ほどのお話からすると、今まさにしっかりとした議論、安全性の議論というのは入り口に立った段階だということで理解をされていると。

【市長】 やっと本当に、単なる誤りの話とかではなくて、安全性の話をしているんだと思っています。

【記者】 ありがとうございます。もう1点、担当課さんに伺えばいいかもしれないんですけれども、なかなか敦賀の市役所の方とかで、やはり東京方面の出張とかが多いかなと

思うんですけれども、実際、米原経由のほうが時間と金額が短かったり安かったりとされている中で、ただ、乗って機運醸成というのはやはり公の市役所の方にも一つ大義としてあるのかなと思います。東京のどこに行くかというのもあるかと思うんですけれども、バランスというか、どちらで行くのが市役所からの出張で良いかというか、今後求めていきたいか、もし何かお考えがあったらお願いします。

【市長】 これは開業前に実際議論を市役所内でして、比較表まで作り、どうしたらいいのかなということを話していました。

J Rさんのほうで商品というか、片方を東海道新幹線を使い、片方を北陸新幹線、往復どちらでもいいんですけれども、そうすると、この料金で行けますよという、そういう商品が出ているんですね。我々としても、北陸新幹線開業で頑張ってきて、利用促進と言っています。今度、敦賀以西の話もあるという中で、どのように我々は新幹線を利用していくのかということは議論をし、その中で、そういう商品も出てきていましたので、旅費規程として、さっきの往復で片方を東海道新幹線、片方を北陸新幹線を使うというのを旅費規程の旅費の基準にしたというところです。

【記者】 新幹線に絡みまして、参考程度にお伺いしたいんですけれども、先ほどどのように変わっていったかデータを取るとおっしゃっていたんですが、具体的にどんなデータをどこで取って、どの辺りで集計を考えていらっしゃいますか。

【市長】 ちょっとまだ正直言うと決めてないんですよ。というのが、実際どの変化を見ていいのかすらよく分かってなかったところがあるので、もちろん商工会議所さんとかも経済データというのは取られると思いますし、各事業体の経営のデータとか、あとは景況というのはずっとこれまでも追ってきているものがあるから、そういうものも参考にしたと思っています。あと我々でいうと、例えば先ほどの駐車場の話であったりとか、あるいは人が歩いているところの人数の話であったりとか、そういうところを見ていくんだろうなと思っています。

なかなかずっとコロナもあって、上手くビフォーが取れてないところもあったりするので、そこは悩ましいなと思ってはいます。数字を取る意味をどのように思っているかという、どうしても我々、思ったほど来てないねとか、いや結構来ているんだよというものの個人個人の意見みたいな形で話が進むことが多いような気がするんですよね。もう既に私のところにも、たくさん人が来てくれているんだというメールもあれば、もう何か元に戻っちゃったよというメールもあるので、一回そういうところを新幹線効果というのを数

字で見たいと考えておりまして、何かそれが分かる指標というのを拾ってやってみたいと思っています。

こういうデータでこれぐらいの時期にというのが分かれば、また皆さんにお伝えしたいとは思っているんですけれども、我々としても必要なデータをしっかり取ってやっていきたいと思っています。

【広報広聴課主幹】 他にございませんか。

では、以上をもちまして市長記者会見を終了いたします。

午後2時10分終了